様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年 １０ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２４１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ０２５５７

研究課題名（和文）マレーシア、インドネシアのローカルな文脈と日本の教育モデルとのインタープレイ分析

研究課題名（英文）The Local Context in Malaysia and Indonesia and the Japanese Educational Model: An Analysis of Interaction

研究代表者
恒吉　僚子（Ryoko, Tsuneyoshi）

学校法人文京学院　文京学院大学・外国語学研究科・特任教授

研究者番号：５０２３６９３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では教科と教科以外の学びを統合した日本の教育モデル（Tokkatsu）の海外での取り組みを、マレーシア、インドネシアを軸に見た。本研究はコロナ禍と重なったためオンラインを活用し、2021―2023年,シンポと海外協力者のインタビューを実施した。2022年度には代表者がマレーシアの国際イスラム大学にてマレーシア、インドネシアにおける実践や論理の変遷をインタビュー、上記大学の併設校における国際学級会（特別活動の論理）の実施、イスラムをいかしたモデル生成について調査した。もう一つの日本の教育モデル、レッスン・スタディ、授業研究の国際学会（WALS）では上記モデルの基調講演（代表者）等を組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義
西洋から派生したモデルが国際モデルとして多い中で、日本発の教育モデルの中には国際的に通用するものもあり、その一つ、教科と教科以外の学びを全人的に統合した日本の教育モデル（海外ではTokkatsuモデルと言われてきた）に注目した研究となっている。従来のモデル借用、教育トランスファーの研究ではアジアの具体例は少なく、さらに、トランスファーのプロセスを描いたもの自体が少ない。本研究はアジア（の一国としての日本）のモデルが国際化する過程、マレーシア、インドネシアという東南アジアの国々で展開される時の変容、自国文化の影響等の過程を分析している。また、西洋以外の国際モデルとしてモデル多元化を目指した。

研究成果の概要（英文）：This project focused on efforts outside of Japan, especially in Malaysia and Indonesia, to learn from the Japanese model which integrates subject and nonsubject learning (Tokkatsu model). Since the period of this project overlapped with the COVID pandemic, online information-gathering was utilized, and in the years 2021 to 2023, yearly online symposiums and interviews of key foreign collaborators were conducted. In 2022, the head of the project met with Malaysian and Indonesian scholars and educators at the International Islamic University, Malaysia. An international classrooom discussion (Tokkatsu model) was organized in the above-stated University affiliated school, and in the 2022 World Association of Lesson Studies(WALS), which focuses on lesson study (jyugyo kenkyu), a chain of Tokkatsu related events, such as the keynote speech (head of the project) were organized.

研究分野：教育社会学

キーワード：教育トランスファー　日本の教育モデル　社会性と情動的学習　ローカルとグローバル　マレーシアの教育　インドネシアの教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1) 国際的なモデルとして通用している日本発の教育モデルはそれほど多くない。各国で広まり国際的な学会（世界授業研究学会　World Association of Lesson Studies, WALS）を持つレッスン・スタディ（授業研究）がこうした例として知られているが、本研究で対象としているモデルは、2000 年代半ば頃から Tokkatsu モデル、日本的なホーリスティックな枠組みからの教育のモデルとして、マレーシア、インドネシアでは研究者等によって、そしてエジプトでは独立行政法人国際協力機構（JICA）の支援によって知られるようになっていった、レッスン・スタディに続く日本発の国際化しつつあるモデルである。「教育トランスファー」の研究事例は基本的に国際的に優勢な西洋モデルに関するものが多く、アジアの教育モデルの事例は少ない（Tsuneyoshi et al. eds. , 2019)。また、西洋の教育モデルの「トランスファー」を対象国の文化・社会的・歴史的文脈の中に位置づけ、グローバルとローカルのインタープレイの中で分析した事例研究（Tan, 2016; Rappleye et al., 2011 ）は一定数あるものの、アジア発教育モデルの「トランスファー」のプロセスを解明したものは極めて少なく、「日本的」教育モデル Tokkatsu を事例にしようとするものは本研究が初めてである。

(2) 世界的に各国に参照されている教育モデルが圧倒的に西洋発であり、消費者は社会・文化的文脈が異なるアジア他の非西洋諸国である。後者は植民地支配によって強制的に前者のモデルを受容したり、植民地解放後もそのモデルを受け継いでいたり、新たに西洋にモデルを求めることが多い。今日においても国際的に影響力を持っているのは大多数が西洋先進国の教育モデル（特に戦後はアメリカ・モデル）である。そしてそこにおいては、従来は教師の役割を狭義の「勉強」、認知的学習に求める西洋的枠組みがとられてきた。

(3) 本モデルに関して、日本の教育モデルをそのまま「トランスファー」したいという海外の要望に関しては１）東京大学教育学研究科附属、学校教育高度化・効果検証センターを拠点として、国際化する Tokkatsu モデルの海外発信と実践的研究(Tsuneyoshi et als., 2016b)、教材（1)、多言語によるホームページ、日本特別活動学会等の国内教員へのシンポ登壇・発信（恒吉, 2016a)、アジアを中心とする海外の政策関係者、教員、研究者への講演、ワークショップ等を通して発信してきた。

２．研究の目的

本研究の目的は、アジアの一国としての日本の教育モデルが東南アジアの多民族国家（マレーシア、インドネシア）に「トランスファー」される際にどのように受容―拒否、変容を迫られるのか、どのような論理が働いているのか、どのように相手国の自己モデル生成を促す可能性があるのかを、関係者のインタビューと参与観察を中心に、モデルの導入決定期から追い、現地の研究者の協力のもと、特定の社会的文脈の中で具体的に明らかにすることにあった。特に従来の西洋→非西洋を前提にした「教育トランスファー」（借用）に対して、先進国（日本）ではあるものの、非西洋（アジア）→非西洋（アジア）の事例を通して問題提起をすることを意識した。使用した教育モデルは Tokkatsu モデルであり「教育トラン

スファー」の対象となってきた教育モデルの中では、価値や行動パターン・態度の形成に深く関わるモデルであり、「トランスファー」にあたって葛藤が生じやすい。

３．研究の方法

現地での学校観察と関係者のインタビューを軸としたフィールドワークを行なった。本研究実施期間と新型コロナウイルスの流行が重なったため、マレーシアやインドネシアにおいても学校が休校になったり、再開された時も社会的距離をとる等、通常の状態にもどらず、往来も可能でなくなった。そのため、本研究では、海外協力者を中心に関係者へのオンラインのインタビューを行ない、同時に、オンラインでの国際シンポジウムを通して、日本の教育モデルをどのように用いようとしているのか、その根拠をも考察してきた。

最終年度においては国境を越えた往来が可能になり、マレーシアからの海外協力者の来日と視察、本研究代表者がマレーシアでイスラムの論理によって日本の教育モデルを参考にすることを話し合った会議に参加、Tokkatsu モデルを取り入れようとしている幼稚園、小学校の観察、また、インドネシアの関係者もマレーシアに集合し、インタビューをした。

４．研究成果

(1) マレーシアとインドネシア、それぞれの事例（海外協力校）において、日本の教育モデル（特別活動から派生した Tokkatsu）が現地の学校にトランスファーされる中で、両国共にローカルな文脈とのインタープレイによって、日本の教育モデルが現地でなじみのある思想によって再解釈されてゆくプロセスが見られた。具体的には、両国の事例で自分達の価値観と重なる日本の教育モデルの部分（相互的な思いやり）が焦点となり、日本の教育モデルが受け手である教員や保護者、子どもによりなじみのある思想系譜で置き換えられた。マレーシアの協力大学と併設の幼稚園―高校ではイスラム教の Rahmah や「ヒューマニスティック教育」（humanistic education）が用いられ、自分達が支持しているイスラム教育の改善すべき点、理念と活動や実践との連結が不足しているとされる面において日本の教育モデルが用いられるようになっていった。インドネシアにおいてはなじみのあるスンダ族（インドネシア、ジャワ島西部に居住する）の人生哲学だとされる共同的な Masagi 、Silih の思想をもって、トランスファーされた Tokkatsu の実践（例　学級の話し合い、相互的な思いやり）を意味付けるようになっていった（Masagi は事例地域において人格教育の政策で用いられていた）。Rahmah, Masagi のいずれも、日本の特別活動の各要素と異なり、それぞれの事例の教師は説明の必要がなく共感し、用いることができていた。2022 年にはマレーシアの上記大学で Rahmah のもとに Tokkatsu を位置付けたシンポが行なわれた（筆者も登壇）。本科研終了後の今年度は、ヒューマニスティックな教育の枠組みのもので Tokkatsu のシンポが行なわれる（筆者、オンライン登壇）。

(2) 本研究で問題となっている全人的な枠組みからの教育（Tokkatsu）に先行して日本の教育から誕生したモデルで国際化したものとしてレッスン・スタディ（授業研究）がある。Tokkatsu とレッスン・スタディとは本来相互補完的なものであるが、国際的な場においては双方は分離し、しかもレッスン・スタディは教科（特に理数系）を対象とするものとして理解されてきた傾向がある。本研究を一つのきっかけとして、上記 WALS のマレーシアで

の 2022 年度次大会運営委員会と協力し、初めての試みとして Tokkatsu の基調講演(筆者)、シンポジウム、ブース、日本の教員によるワークショップの一連のイベントが授業研究の年次大会で企画された。その結果、Tokkatsu モデルのメッセージ（全人的な枠組みからの教育、教科以外、非認知的領域も教育・レッスン・スタディの対象となりうる）に関しては、教科・認知的領域に焦点化する傾向があった西洋諸国の研究者とも協力体制ができつつある（例　WALS の Routledge 社とのシリーズにおいて、全人的な枠組みからの教育についての書をアメリカ、イギリスからの研究者・教育者を入れて企画中)。

(3) 研究面だけでなく、研究をベースにした Tokkatsu の実践について、学級会を国を越えて行なう「国際」学級会を、代表者の所属大学併設中高と海外協力者のマレーシア国際イスラム大学の併設中高において対面で行なった（恒吉, 2023 出版予定)。

（注）

(1)センターからの DVD の発行・ Japanese Whole child education: Learning from cleaning and lunch, Tokkatsu Series 1, 2015; Myoko Friendship School: Linking TOKKATSU with social education, Tokkatsu Series 2, 2017; Essay education for life, Tokkatsu Series 3, 2018。

（引用文献）

Rappleye , J., Imoto, Y. & Horiguchi, S. (2011) Towards ‘thick description’ of educational transfer: Understanding a Japanese institution's ‘import’ of European language policy. *Comparative Education* 47(4), 411-432, DOI: 10.1080/03050068.2011.559698.

Tan, C. (2016). Educational policy borrowing in China: Looking west or looking east? New York: Routledge.

恒吉僚子(2016a).「世界の小学校教育と日本型の教育の可能性（特集 日本型教育の可能性と学校行事の役割)」『道徳と特別活動』8 巻、4-7.

Tsuneyoshi, R., Kusanagi, K., & Takahashi, F. (2016b). Cleaning as part of Tokkatsu: School cleaning apanese style. Working Paper Series No. 6 , Center for Excellence in School Education, Graduate School of Education, The University of Tokyo.http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/wp/.

Tsuneyoshi,R., Sugita,H., Kusanagi,K., & Takahashi,F.(Eds.).(2019). *Tokkatsu: The Japanese educational model of holistic education*. Singapore: World Scientific.

恒吉僚子「第九章　コロナ後の学校教育とは」恒吉僚子・藤村宣之編著『国際的に見る教育のイノベーションー日本の学校の未来を俯瞰する』勁草書房、2023 年 11 月出版予定。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 恒吉僚子	４．巻 1
２．論文標題 多元的な教育の「トランスファー」を考えるーマレーシアとインドネシアの事例からの考察	５．発行年 2023年
３．雑誌名 一般社団法人グローバル多文化社会研究所　Working Paper Series No.1	６．最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　8件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 Educational Transfer of the Japanese Model of Holistic Education
３．学会等名 Indonesia University of Education (online)（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 Educating Children Holistically: Implications form the Japanese Tokkatsu Model Symposium
３．学会等名 東京大学比較教育学研究室主催（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Mastura Badzis
２．発表標題 Educating children holistically: What Tokkatsu model could contribute to Malaysian education in the post-pandemic era.
３．学会等名 東京大学比較教育学研究室主催（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Rosnani Hashim
２．発表標題 Malaysian value-based national philosophy of education (FPK) and enhancement of practices through Tokkatsu.
３．学会等名 東京大学比較教育学研究室主催（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yuto Kitamura
２．発表標題 Japanese model of holistic education and educational development.
３．学会等名 東京大学比較教育学研究室主催（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 The lesson study of noncognitive learning: Lesson study in the Japanese model of holistic education Tokkatsu.
３．学会等名 World Association of Lesson Studies（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 Towards a model of holistic education: Examining new directions of educational reform.
３．学会等名 International Islamic University Malaysia（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Catherine Lewis
２．発表標題 Lesson study and the Japanese model of holistic education
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 The Japanese Model of Holistic Education in the International Context Symposium
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kazuhiko Nambu
２．発表標題 Japanese style public health education: A response from teachers
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hiroshi Sugita & Nobuhiro Setoguchi
２．発表標題 The Japanese model of schooling meets Egypt: Lesson study and Tokkatsu
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Tatang Suratno and others
２．発表標題 Holistic educational practice in Indonesia: Continuity and challenges
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Tatang Suratno
２．発表標題 A journey towards an integrated model of Tokkatsu and lesson study
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Ryoko Tsuneyoshi
２．発表標題 The Japanese Model of Schooling at a New Stage: Towards and Integrated Model of Tokkatsu and Lesson Study Symposium
３．学会等名 Bunkyo Gakuin University. Supported by CASEER, Univ. of Tokyo（科学研究費、オンライン）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計7件

１．著者名 Ryoko Tsuneyoshi (edited by Vincent-Lancrin and others)	４．発行年 2022年
２．出版社 OECD Publishing	５．総ページ数 385
３．書名 How Learning Continued during the COVID-19 Pandemic: Global Lessons from Initiatives to Support Learners and Teachers (pp. 221-6)	

1．著者名 Ryoko Tsuneyoshi et al. (Eds.)	4．発行年 2020年
2．出版社 World Scientific	5．総ページ数 327
3．書名 TOKKATSU: The Japanese Educational Model of Holistic Education	

1．著者名 恒吉僚子編	4．発行年 2020年
2．出版社 科学研究費（基盤C　20K02557）報告書 1	5．総ページ数 55
3．書名 パンデミックのもとでの全人的な人間形成（holistic)教育	

1．著者名 恒吉僚子&藤村宣之	4．発行年 2023年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 297
3．書名 国際的に見る教育のイノベーション－日本の学校の未来を俯瞰する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Educating the Whole Child: Tokkatsu （国際発信用HP)
http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/
一般社団法人グローバル多文化社会　https://www.gmsresearch.net/
東京大学教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センタープロジェクトページ
https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/projects-list/jpmodel/
東京大学未来社会協創推進本部登録プロジェクト
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/sdgs_project121.html
Tsuneyoshi.R.(2015). The World of Tokkatsu (多言語).報告書(本科研),1巻,1-53.
http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/cms/wp-content/uploads/2016/03/Tokkatsu_Guidebook_Arabic.pdf　他

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 The Japanese Model of Holistic Education in the International Context Symposium	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Educating Children Holistically: Implications form the Japanese Tokkatsu Model Symposium	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The Japanese Model of Schooling at a New Stage: Towards an Integrated Model of Tokkatsu and Lesson Study Symposium	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
マレーシア	国際イスラム大学　マレーシア			